

令和8年度第1回鹿児島市高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画
及び認知症オレンジシティかごしま推進計画策定・管理委員会 会議概要

- 1 日 時 令和8年6月29日（月） 14時00分～15時10分
- 2 場 所 鹿児島市役所 本館2階 講堂
- 3 出席者 鹿児島市高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画及び認知症オレンジシティかごしま推進計画策定・管理委員会委員20名

4 会次第

- 1 開会
- 2 委員の紹介
- 3 事務局職員の紹介
- 4 会長・副会長の選出
- 5 議事
 - (1) 計画策定の体制について
 - (2) 計画策定のスケジュール
 - (3) 計画策定の趣旨等について
 - (4) 本市高齢者を取り巻く現状
 - (5) 施策の体系（第9期）
- 6 閉会

5 審議の概要

○議事

【計画策定の趣旨について】

- ・ 高齢者が増える中、介護が必要な状態になっても介護してくれる人がいない介護難民が今後生じないように、介護者の減少には的確な対策を考えないといけない。
- ・ 介護人材が介護するだけではなく、みんなで力を合わせて長寿社会に向かって協力していくことが大事。高齢者に対して、各地域、行政、子どもたちも含め、みんなで取り組む認識を持って動いていただきたい。一部の人たちだけで支える時代は終わった。
- ・ 訪問看護も人材不足が喫緊の課題となっている。看護の人材確保、定着支援に、看護協会としても関係機関と連携しながら進めていきたい。

【本市高齢者を取り巻く現状について】

- ・ 「認知症高齢者等の状況」について、増加傾向にあることを分かりやすく示してほしい。
 - 認知症高齢者数の推移について、記載を検討したい。
- ・ 医療や介護サービスの充実した鹿児島市に市外から高齢者が入ってくると耳にするが、数字の上でどのように表れるものか知りたい。
- ・ 基本的に、地域とのつながりを持つことのできない方々への対応が大きな課題ではないかと感じている。比較的対応できるのは地域コミュニティではないかと考えているが、難しい面もあるので、今後サポートしていただきたい。
 - 各地域で地域ケア会議を開催しており、地域コミュニティ協議会の方なども巻き込みながら地域課題を洗い出し、地域コミュニティ協議会、医療・介護関係者などとともに地域課題の解決に取り組んでいく体制としている。

- 認知症支援室では、地域包括支援センターが設置されている市内の 17 圏域に 1 チームずつ、チームオレンジというボランティア団体を設置しており、その中で、地域コミュニティ協議会の構成団体になり、協議会の一員として活動していただいているチームオレンジもある。チームオレンジは、地域との連携を課題としているので、町内会や、地域コミュニティ協議会、その他企業や学校とも連携しながら今後も取り組みを進めていきたい。
- ・ 地域ケア会議はどのくらいの頻度で開催され、どのような方々が何人ほど参加しているのか。
 - 地域ケア会議は市内 17 圏域すべてに設置されている。地域コミュニティ協議会、民生委員、医療・福祉関係者などが参加し、年 2 回の定例会議に加え、必要に応じて分科会等を開催している。
- ・ 「地域活動やボランティア活動の状況」ということで、「町内会・自治会への参加頻度」と「ボランティアグループへの参加頻度」について高齢者等実態調査の結果の記載があるが、地域コミュニティ協議会や町内会などの役員として町内会・自治会やボランティアグループに参加していると捉えてよいのか。町内会・自治会の行事、例えば夏祭り、子供会、敬老会、成人学級といったものへの受け身的な参加については「参加していない」として捉えてよいのか。
 - 役員であるかとの質問は設けていない。積極的な参加について調査しているわけではなく、実際に参加したかどうかという事実についてのみの回答となる。
- ・ 高齢者等実態調査において、障害を持たれている方について調査されているか。（特段調査をしているわけではない場合、）回答の中で障害を抱えている方からのアンケートを取った可能性はあると捉えてよいのか。
 - 障害について質問を設けているわけではなく、介護の状況や日常生活に関することを調査しており、（障害をお持ちかどうかといった）回答者の属性については把握できていない。標本調査として、無作為抽出により実施しているので、回答者の中に障害をお持ちの方が含まれている可能性はある。